

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》○教授／越野 寿 准教授／豊下 祥史 講師／川西 克弥

【概 要】

無歯顎患者及び高齢者における顎口腔系の形態と機能に関する基礎的事項についての概念を健常有歯顎者のそれらと対比させて理解し、歯の喪失により失われた形態と機能を回復するための全部床義歯の在り方、製作方法、装着方法及び装着後の管理・処置などに関する学理と術式を学習する。

【学習目標】

- 無歯顎補綴治療の目的及び意義を説明する。
- 顎口腔系機能（咀嚼・嚥下・発音）について説明する。
- 健常有歯顎者と無歯顎患者の下顎運動、下顎位について説明する。
- 全部床義歯の維持、支持、安定に関する補綴学的な説明する。
- 無歯顎補綴治療を行うにあたっての診察、検査事項についての説明する。
- 無歯顎補綴治療を行うにあたっての前処置について説明する。
- 各種印象採得法について、適応と術式が説明する。
- 無歯顎補綴治療における印象域、材料、方法などについて説明する。
- 無歯顎補綴治療における咬合採得の術式と、その補綴学的根拠について説明する。
- 各種咬合器及び顔弓について、その目的、特徴、使用法などについて説明する。
- 人工歯の種類とその選択基準を説明する。
- 前歯部人工歯の選択と排列基準を説明する。
- 臼歯部人工歯の選択と排列基準を説明する。
- 健常有歯顎者と無歯顎患者の咬合様式の差異を説明する。
- 歯肉形成、蟬義歯試適の目的、意義及び方法について説明する。
- 削合の意義及びその術式と、その補綴学的根拠について説明する。
- 義歯装着直後及び長期間経過後に生ずる不調に対する原因と対処法を説明する。
- 顎口腔系に顕われる老化現象を義歯装着の観点から説明する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1) 2	無歯顎と全部床義歯 無歯顎の病因と病態 補綴装置としての全部床義歯 全部床義歯装着者にみられる主 要症候 診察、検査及び診断 概形印象と最終印象	- 無歯顎補綴治療の特徴及び意義を理解する。また、全部床義歯の維持、支持様式に関する生物学的、物理学的要件を理解する。なお、無歯顎補綴治療の対象は多くが高齢者であるため、加齢に伴う顎口腔系の変化を義歯装着の視点にたって整理し、その概要を理解する。適正な無歯顎補綴治療を行うためには、適正な義歯床を有する全部床義歯が不可欠である。適正な義歯床形態を付与するためには無歯顎顎堤とその周囲軟組織の挙動を把握する必要がある。すなわち、適正な概形印象採得と精密印象採得を行い得る知識と技能が必要となる。診断、処置方針の決定に不可欠な研究用模型の在り方を考え、無歯顎補綴治療に関する解剖的ランドマークを理解する。同時に、目的別の印象方法、印象用トレー、印象材などについて学習する。特に、機能印象における筋圧形成に関係の深い筋及び下顎運動との関連について学習する。また、最終印象から得られる作業用模型の在り方及びその意義を理解する。 - この2回の講義及び実習を通して、全部床義歯の義歯床が具備すべき条件及びこのための術式を理解する。 「無歯顎補綴治療学」P1-123 - 解剖学：口腔顎顔面筋の付着部位とその作用 - 理工学：印象材、模型用材料、即時重合レジン、コンパウンド、ワックス - 細菌学：カンジタ菌	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		病理学：抜歯窩の治癒過程、口腔粘膜及び顎関節の病変及び加齢変化 生化学：顎堤吸収因子 生理学：神経筋機構、顎口腔系機能と中枢神経系 放射線学：放射線解剖学（パノラマX写真）、放射線診断学（顎関節） 内科学：顎堤吸収及び機能的咀嚼系に影響を及ぼす全身疾患 E-3-4)-(2)- ~	
3 (4	上下的顎間関係の記録 (咬合採得)	- 咬合採得の目的、咬合床の製作法を理解し、仮想咬合平面の設定法を修得する。 - 健常有歯顎者の安静位、発音位、嚥下位などを利用する生理的な咬合高径決定法と、健常有歯顎者の顔面形態及び口腔内の解剖学的ランドマークを利用する形態的な咬合高径決定法など、種々の咬合高径決定法を理解する。 - 下顎最後退位、タッピングポイント、嚥下位を利用した水平的顎間関係記録法、及びその他の水平的顎間関係記録法を理解する。 「無歯顎補綴治療学」P125-164 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥
5 (7	下顎運動の記録と咬合器装着 水平的顎間関係の記録 (ゴシックアーチ描記について)	- 人工歯の咬合面形態を顎機能に調和させるために、下顎運動記録法を理解するとともに、下顎運動を再現する咬合器に関する理論に知識を深める。 - 上顎の頭蓋に対する位置を記録するための顔弓、各種咬合器の特徴と調節性咬合器においてはその調整法の概要を学習する。 - このためには、下顎位、下顎運動に関する知識が不可欠である。 - 下顎最後退位とタッピングポイントを利用した水平的顎間関係記録法、及びその他の水平的顎間関係記録法を理解する。また、ゴシックアーチ描記装置の構成、製作法を学習する。 - ゴシックアーチの臨床的意義及びその描記法と描記図の評価法を学習する。 - ゴシックアーチ描記図から咬合器再装着を行う意義を理解する。 「無歯顎補綴治療学」P165-180 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥
8	前歯部人工歯の選択と排列	- 前歯部人工歯の種類、形態、大きさ、色調及びその選択法を理解する。 - 前歯部人工歯の排列の在り方と排列方法を学ぶ。 「無歯顎補綴治療学」P181-194 理工学：人工歯材料 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥
9 (10	臼歯部人工歯の選択と排列 蠟義歯の試適 埋没、重合、研磨 重合の完了した義歯の咬合器再装着と人工歯の削合	- 解剖学的人工歯の排列法についての基本的原則及び排列法を理解する。 - 非解剖学的人工歯の特徴及び各種排列法を理解する。 - 健常有歯顎者の咬合様式を把握し、全部床義歯における咬合の在り方を理解する。 - 歯肉形成の意義、要点を理解し、蠟義歯試適時の点検項目を学習する。 - 臨床的見地からレジンの重合法を理解する。 - スプリットキャスト法及びテンチの歯型法による咬合器再装着法を学習する。 - 削合の意義及びGysiの咬合小面形成法を学び、選択削合法、自動削合法の実際について理解する。 - 研磨の意義及び方法について学ぶ。 「無歯顎補綴治療学」P194-233 E-3-4)-(2)- ~	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
11	義歯の装着 義歯装着直後の経過観察	- 完成義歯の装着方法を学ぶと同時に、印象採得、咬合採得、人工歯排列、重合、削合の各ステップにおける要点を、義歯装着から振り返る。 - 義歯装着後の患者指導に関する知識を深める。 - 義歯装着直後に生ずる床下粘膜の異常等への対処法について学ぶ。 ○「無歯顎補綴治療学」P234-243 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥
12 { 13	義歯装着後長期間経過後の経過観察	義歯装着後長期間経過後にみられる主要症候とその原因について理解する。 義歯装着後長期間経過後の顎堤の変化、床下粘膜の病態、顎関節・筋の異常を理解し、それらへの対処法を学習する。 義歯装着後長期間経過後に来院する患者の診察、検査を行い、その結果を評価した後に、診断、治療計画を立案できるように知識を深める。 無歯顎補綴治療を開始する前に必要な前処置を理解する。 装着後の義歯床及び人工歯の破折・破損などの原因を考え、各々に対する修理方法を学習する。 ○「無歯顎補綴治療学」P244-262 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥
14	特殊な全部床義歯	複製義歯、金属床義歯、即時義歯、オーバードンチャー、顎補綴、インプラントによる治療、デジタル技術の応用による義歯の製作方法について、その特徴と適応を理解する。 ○「無歯顎補綴治療学」P263-316 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥
15	まとめ	顎堤の保全と筋、顎関節との調和を第一義とした全部床義歯について、義歯床形態と咬合関係を中心に考える。また、歯の欠損に伴う咬合・咀嚼障害及び発音障害を有床義歯の装着によって回復又は改善する義歯補綴治療の意義を全身の健康の観点から考える。 E-3-4)-(2)- ~	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥

【評価方法】

[全部床義歯補綴学（講義）評価方法] 定期試験（100％）

- ・ [全部床義歯補綴学（実習）評価方法] 実習到達度及び製作物（70％）、実習小テスト（30％）
- ・ [判定法] 講義と実習を同等に評価し、それぞれが60点以上を合格とする。

【備 考】

教科書 ：「無歯顎補綴治療学」細井 紀雄、平井 敏博 ほか 編 医歯薬出版
「歯科補綴学専門用語集」日本補綴歯科学会 編 医歯薬出版

参考書 ：「コンプリートデンチャーテクニック」細井 紀雄、平井 敏博 ほか 編 医歯薬出版

【学習の準備】

指定した教科書の該当ページを事前に読み、疑問点を整理しておくこと(50分)。

実習開始時に前回までの講義・実習内容に係る小テストを実施するので復習をしておくこと(50分)。

- ・小テストは実施後解説を行う。

【ディプロマ・ポリシーと当該授業科目の関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を全部床義歯補綴学の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を全部床義歯補綴学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を全部床義歯補綴学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を全部床義歯補綴学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を全部床義歯補綴学の観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

越野 寿（歯科医師）、豊下祥史（歯科医師）、川西克弥（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

全部床義歯補綴学は、無歯顎者の機能的、形態的回復を通じて、患者の全身の健康の維持や回復に寄与する科目であり、学理にのっとった教育内容と実務経験を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。